

## 第2回 市一括研修会レポート

6月10日（月）、取手市福祉交流センターで「第2回 市一括研修会」が行われました。この日は各小中学校の学校運営協議会の委員方、計86名が参加されました。会場に来られなかった委員さんの中には、学校やご自宅でオンライン研修として参加された方々もいらっしゃいます。委員の皆様、ご参加いただき、ありがとうございました。さて、第2回目の全体研修会では【熟議】を実際にやってみて、協議のやり方を委員の皆様にも体験していただきました。今回は、その様子を画像を織り交ぜて振り返ってみます。



講師の文部科学省CSマイスター 安齋宏之先生

- 1：【熟議】とは？  
多くの当事者による「**熟慮**」と「**議論**」を重ねながら課題解決を目指す対話
- 2：【熟議】の進め方
  - ① グループの人数  
1グループ6名前後（多すぎると発表に時間がかかり、少ないと多様な意見が出ない）
  - ② 意見の出し方  
**付箋紙に自分の考えを書き、模造紙等に貼り付けていく。**  
模造紙等に出された意見を直接書き込んでいく。（以上、研修会資料より抜粋）

右上のような【熟議】の意味や目的、その進め方などを講師の安齋先生から教えていただき、早速少人数グループで「模擬熟議」に取り組んでみました。

### < 模擬熟議のテーマ > 「小中学校が目指す子供像を考える」

変化の激しい時代をたくましく生き抜き、20年後の取手市の未来を切り拓き、担える人材を育成するために、皆さんは、子供たちにどんな力を育みたいですか。

#### 熟議Ⅰ 「子供たちに付けたい力は？」

- 付箋に自分の考えを書く。（1枚の付箋に一つの考え）何枚書いてもよい 5分
- 考えの発表（模造紙に付箋を貼りながら自分の考えを発表する） 7分
- 考えの整理・話し合い（3つに絞る） 13分



← 【熟議】のようす

参加者は原則として同じ学校どうしてグループを組みました。人数が少なかったり、反対が多かったりした場合は、他校の委員さんと同じグループになったり、グループを分けたりしました。

ゲーム的要素を取り入れた自己紹介（アイスブレイク：緊張ほぐしの手法）を行った後、早速各委員さん方は付箋紙に「子供たちに付けたい力」を書いていきます。1枚に1個ずつ、できるだけたくさん書いていきます。



自分の考えを説明しながら、1枚ずつ模造紙に付箋紙を貼っていきます。同じ考え、似たような考えは同じグループにまとめ、線で囲んでいきます。

## 熟議Ⅱ 「どんな学び（体験）をさせていくか？」

- 付箋に自分の考えを書く。 5分
- 考えの発表 7分

### 考えの整理・話し合い 13分

- 話し合った内容の共有（1班2分以内で） 10分
- まとめ 2分



二つ目の熟議の課題は、熟議Ⅰでまとめた「付けたい力」を実際に身に付けさせるために、具体的にどのような学び（体験）を実践していくか、というものでした。学校で、地域で、そして家庭でできることを考えるとともに、この三者が連携・協力してできること、という視点で考えていくことも大切です、と安齋先生からお話がありました。



← 代表グループ（桜が丘小）による発表

この日は時間がなく、全グループの発表はできませんでしたが、あるグループの熟議の結果を全体で確認しました。

今回、運営協議会の委員の皆さんが体験した【熟議】は、5月に行われた市内の各公民館長さん方、そして各小中学校の校長先生方を対象としたコミュニティ・スクール研修会でも、それぞれのテーマで実施しました。一部の方の意見、発言で協議が進むのではなく、参加者全員が、それぞれの考えを他に伝え、それらをもとに話し合いを行うことで、【当事者意識が高まり、相互理解と信頼関係が深まります】（安齋先生の資料より）。グループの中には、こうした【熟議】を子供たちにも体験させてはどうか、といった意見も出ていました。それだけ、委員さん方は【熟議】の意義を見いだしていたのではないのでしょうか。安齋先生、そしてお忙しい中、ご参加いただいた委員の皆様、ありがとうございました。